



1981

完全参加と平等

# 国際障害者年

みんなが参加し  
みんなが平等に暮らせる  
より良い社会づくりを

わたしたちの社会は、いろいろな人間のあつまりであり、人はみなお互いに助け合って生きているのです。

## 強い支えは地域の理解と協力

### 精神薄弱者更生施設

#### いずみの里を訪ねて

#### 豊かな自然の中に恵まれた施設

「ミニコロニー」「いずみの里」は、磐越西線の猿田駅から車で約五分。五泉市を一望できる丘陵地にあり、自然豊かな恵まれた環境です。約九万平方メートルの敷地に、明るく近代的な本館と体育館、屋外にはグラウンドと広大な農園が広がっています。昭和四十九年九月、県のミニコロニー基本構想が発表されて以来、三市中東蒲原郡の住民が一体となって建設に向けて努力してきました。

この施設へ入園できる人は、十八歳以上の重度精神薄弱者や施設で指導訓練しても、就職に

就けられない人です。そのため、この施設は長期に収容保護する機能をもっています。現在、十八歳から四十二歳まで五十人が在園しており、白根市からは八人が在園しています。

MINICOLONYとは  
心身障害者のための施設  
訓練と生活指導で、県内全域を  
対象とするような大規模施設  
となる。入所者と両親が遠  
く離れ、親子の親しみが薄  
くなり、社会生活というものを  
身に覚えのないままに育つこ  
とに障害者だけの閉鎖社会は  
なりかねません。

今年には障害者の社会への完全参加と平等をめざす「国際障害者年」です。十月十五日まで紹介した精神薄弱児施設「ふなおか学園」に引き続き、今月号では、精神薄弱者更生施設「いずみの里」を取り上げ、施設の仕事や活動をみなさんに紹介します。

#### 開園初年度はテストケース

ミニコロニー「白岩の里」から移ってきた人、就職を経験してきた人、なかには家に閉じこもってばかりいた人もいます。オープンしてからすでに半年あまり。すっかり園生活にも慣れて、友だちもたくさんでき、楽しい毎日を送っています。

ミニコロニーには、都市型と農村型があり、都市型は木工、縫製などの屋内作業が中心で、農村型は畑作、畜産などの屋外作業が中心となっています。いずみの里は、農村型ミニコロニーに含まれます。このほか県内には、いからし、新潟みずほ園などのミニコロニーがあります。

#### 農作業は付近の農家の人たちがお手伝い

今、農園には、二千五百本の大根と、二百株の白菜が収穫期を迎えています。農作業は、付近の農家のみなさんから協力してもらっています。

このほか近くの婦人会の人たちが、ときどき民謡踊りの指導にも来てくれます。八月二十九日、グラウンドで、地域の人たちと交流を深めようと納涼大会を開催。園生は日ごろの練習の成果を発表し、かっさいを得ました。

ことにより、親子の親しみが薄くなり、閉鎖的にならないように努めています。そのためにも、施設が園生の居住地に近いところに建設されたわけで、園生の幸せを中心にした、生きがいのある、明るく開放的ないずみの里づくりをめざしているのです。

五月には、津川高校のボランティア約五十人が、なすやメロン、スイカを植えていってくれました。

このほか近くの婦人会の人たちが、ときどき民謡踊りの指導にも来てくれます。八月二十九日、グラウンドで、地域の人たちと交流を深めようと納涼大会を開催。園生は日ごろの練習の成果を発表し、かっさいを得ました。

ことにより、親子の親しみが薄くなり、閉鎖的にならないように努めています。そのためにも、施設が園生の居住地に近いところに建設されたわけで、園生の幸せを中心にした、生きがいのある、明るく開放的ないずみの里づくりをめざしているのです。

#### 園生と一か月間も泊り込み

開園当時は、大変でした。一人ひとり障害の程度が違うため、私も一か月間、いずみの里に泊まり込み、園生の実態は握りに全力を注ぎました。開園初年度の今年、は、あくまでもテストケース。今は、学校の学習指導要領にあたる実施要項の作製を、急いでいるところです。

開園当時は、大変でした。一人ひとり障害の程度が違うため、私も一か月間、いずみの里に泊まり込み、園生の実態は握りに全力を注ぎました。開園初年度の今年、は、あくまでもテストケース。今は、学校の学習指導要領にあたる実施要項の作製を、急いでいるところです。

能力差が激しく、一見すると知能が低いとは思えない人も多いのですが、かなり重度の知能障害をもつ人もいます。定時排便訓練を行うことにより、おしめをあてていた人も取れるようになりました。風呂が大きく、こわがって入れない人や、何のために風呂に入るのかわからない人には、マンツーマンの全面介助で、一人で入れるよう指導しています。着替えのできない人も多く、服の前後の区別をつかえない人には、服にもようをつけて覚えさせます。



いずみの里 長 指導 系 長 川 司 政 司 さん

開園当時は、大変でした。一人ひとり障害の程度が違うため、私も一か月間、いずみの里に泊まり込み、園生の実態は握りに全力を注ぎました。開園初年度の今年、は、あくまでもテストケース。今は、学校の学習指導要領にあたる実施要項の作製を、急いでいるところです。

能力差が激しく、一見すると知能が低いとは思えない人も多いのですが、かなり重度の知能障害をもつ人もいます。定時排便訓練を行うことにより、おしめをあてていた人も取れるようになりました。風呂が大きく、こわがって入れない人や、何のために風呂に入るのかわからない人には、マンツーマンの全面介助で、一人で入れるよう指導しています。着替えのできない人も多く、服の前後の区別をつかえない人には、服にもようをつけて覚えさせます。



好きなものしか食べない人が多かったのですが、全面介助の必要人は三人に減りました。人間として生きていく基本的なことを修得するため、繰り返し繰り返し、学習しています。